

交渉力低下 手玉にとられた米



米中関係は、昨年10月の首脳会談で一時休戦に至った。

今回の会談は、その状態を維持・管理するという意味合いが強い。イラン情勢や世界情勢に与える影響はほとんどないだろう。

トランプ米大統領は、対イラン攻撃の終結が見通せず、11月に中間選挙を控える。今回の首脳会談で農産品やエネ

ルギーなどの対中輸出拡大といった経済的成果を得たいとの思惑があったはずだ。中国側から目に見えるお土産をもらい、中国側から大きなお土産は求められなかったとして、米国は成功だと言っているだろう。

佐橋亮・東大教授 (米国外交)

った。

米国は、かねて求めてきた抜本的な経済改革を前面に出さなかったようだ。米国の交渉力が落ちていることの証左だ。

台湾問題にトランプ氏がどう言及するかは読めない。中国へのリップサービスがあるとしても、習近平シーチンピン国家主席に釘を刺すことはあり得ない。

米国には何のメリットもないからだ。

中国の国力が増強され、経済ではレアアースが「武器化」された。米国はイラン情勢に足をすくわれている。時間は中国に優位に働いている。

米中の首脳は、年内に習氏の訪米のほか、アジア太平洋経済協力会議首脳会議と主要20カ国・地域首脳会議で、3回会談する可能性がある。本当の駆け引きはそこで行われるだろう。(聞き手・笹山志)